



松本市図書館だより

平成27年 4月1日発行 第25号

編集・発行 松本市図書館
〒390-0861
松本市蟻ヶ崎 2-4-40
電話/0263(32)0099



4月23日～5月12日は、

こどもの読書週間

です。

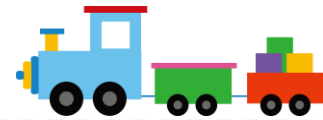
2015年・第57回こどもの読書週間 標語 「本は キラキラ 万華鏡」



子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所を、との願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に誕生しました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間（5月1日～14日）でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より現在の4月23日（世界本の日・子ども読書の日）～5月12日に期間を延長しました。開始当時より、図書館・書店・学校を中心に、子どもたちに本を手渡すさまざまな行事が行われてきました。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけていくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか……。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。
(読書推進運動協議会ホームページより)

職員が子どもころに読んだ思い出の一冊



「100万回生きたねこ」
佐野 洋子／作・絵 講談社



はじめてこの絵本を読んだ時は、猫が100万回生きて100万回死ぬので、「すごいなあ」としか思いませんでした。また最後には死んでしまったので悲しかったのを覚えています。ただ、少し大きくなった頃にもう一度読み返したとき、奥が深い絵本だと考えさせられました。とても有名な絵本でみなさんも知っているかと思いますが、もう一度読み返してみたいかたがでしょうか。

「パスワードは、ひ・み・つ」
松原 秀行／作 講談社



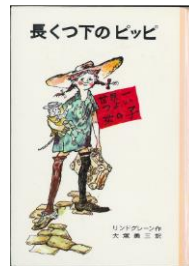
これは“風浜電子探偵団”が事件の謎を解いていくというお話です。パソコンを使っての謎解きや電子捜査会議のきっかけに、私も参加したい！と何度思ったことか…。また、自分の力で謎が解けると嬉しかったものです。“風浜電子探偵団事件ノート”シリーズは現在36巻まで刊行されています。ぜひ読んでみてください。

「狐笛のかなた」
上橋 菜穂子／作 理論社



中学生当時、学校の図書館に“読書感想画”というものがあつた。その絵に惹かれて読んだ本です。日本古来の風景が美しく描かれており読んでいて心が温まるお話です。そんな世界観が好きなた、読んだことがないという方、是非一度読んでみてください。

「長くつ下のピッピ」



「長くつ下のピッピ」
リンドグレーン／作 岩波書店

私が小学校2年生のときに学校の図書室で出会った本です。主人公の、力持ちで破天荒な少女ピッピがとても魅力的で、読んでいてとても面白い本でした。私が図書室へ通うきっかけになった一冊です。

松本市図書館 こども読書週間特別企画

この絵本がすき!



先月、図書館ご利用の皆様から応募していただいた、あなたの大好きな絵本。その結果を、こども読書週間にあわせて、市内各図書館で展示します!

新たな絵本と出会うチャンスです。ぜひ、図書館まで足を運んでください♪

展示期間

4月25日(土)～5月21日(木)

まつもと桜紀行

そろそろ桜の季節・・・

本を手に桜巡めぐりはいかがでしょうか?

『信州の桜紀行』

窪田 文明／著 【N291ク 所蔵館：中央・南部・あがた・西部・寿台・空港・波田】
高遠城址公園や海津城跡など、南信、北信も含めた長野県内の桜スポットが紹介されています。



新刊のご案内

『絵でわかる感染症』

岩田 健太郎／著 講談社【493.8 イ 所蔵館：中央・あがた】

感染症の本に、農大を舞台にした菌がみえる大学生を主人公にした漫画「もやしもん」の菌&ウイルスたちが乗り込んできました。顕微鏡写真の代わりにマンガの菌たちが挿絵として描かれてはいますが、様々な感染症についての解説がされています。感染症が気になる方も、もやしもんが気になる方も手に取ってみてください。



『ジャーで楽しむ毎日のサラダ』

渥美 真由美／著 洋泉社【596 ア 実用赤8 所蔵館：あがた・本郷・波田】

保存用のガラス瓶（ジャー）にドレッシングや野菜を入れた“ジャーサラダ”。手軽に野菜がとれることや、冷蔵庫で保存ができるということで話題になっています。ドレッシングのレシピや、美肌やダイエットができるレシピやフルーツサラダなどバリエーション豊かに紹介されています。作ってみたい、食べてみたい方、必見です！



予約本ベスト5

平成27年2月15日～

平成27年3月15日受付

一般書

- 1位 『神様のカルテ 0』
夏川 草介／著、小学館
- 2位 『絶唱』
湊 かなえ／著、新潮社
- 3位 『フランス人は10着しか服を持たない
～パリで学んだ“暮らしの質”を高める秘訣～』
ジェニファー・L. スコット／著、大和書房
- 4位 『サラバ! 上』
西 加奈子／著、小学館
- 5位 『サラバ! 下』
西 加奈子／著、小学館

児童書

- 1位 『鹿の王 上』(生き残った者)
上橋 菜穂子／著、KADOKAWA
 - 2位 『鹿の王 下』(還って行く者)
上橋 菜穂子／著、KADOKAWA
 - 3位 『世界で一番貧しい大統領のスピーチ』
ムヒカ／述、汐文社
 - 4位 『ぼくのニセモノをつくるには』
ヨシタケ シンスケ／作、ブロンズ新社
 - 5位 『動物と話せる少女リアアーネ10
小さなフクロウと森を守れ!』
タニヤ・シュテーブナー／著、学研教育出版
- 『りんごかもしれない』
ヨシタケ シンスケ／作、ブロンズ新社

図書館に聞いてみよう!



【今月の事例】

Q. エイプリルフールの由来について教えて!

A. ア『イラスト版子どもの伝統行事』
(合同出版 2006年)

イ『子どもに教える今日はどんな日?』

(PHP 研究所 2006年)

多くの説がありますがア・イの本から主に3つの説があることが分かりました。

- ①1564年にフランスで暦が変更され、1年の始めの祭りを1月1日に改めたことに反対する人が、新年を祝う悪ふざけをしたという説。
- ②インドの僧が3月の苦しい修行を終えた4月1日に、ホッとして人をからかったり、いたづらをしたりしたことから始まったという説。
- ③イエスキリストの命日説。キリストが弟子に裏切られ処刑されたことを忘れないようにほかの弟子たちが広めたという説。

図書館には、調べ物のお手伝いをするサービスがあります。

本についての問い合わせ以外にも、身近な疑問についてもお調べいたしますので、お気軽にご利用ください。



陽射しが暖かく花々が蕾をつけ、春の訪れを感じる今日この頃です。新しい季節のはじまりに、図書館で新しい本との出会いをしてみませんか? 忘れられない本との思い出を是非、図書館でつくってみてください。